

## 学校教育目標

- ・やさしい子
- ・よく考える子
- ・がんばる子

## めざす学校像

「みんなが元気で明るい  
きれいな学校」

〒350-1315 狭山市北入曽980

TEL 04-2958-2718

Fax 04-2958-2719

## 夏休みの思い出

教頭 日下部 和史

4月8日の新生入間野小スタートから72日が過ぎ、1学期も終わります。460名の入間野っ子が無事1学期を終えることができたことは、私たち職員にとって何よりも嬉しいことです。これも、保護者の皆様を始め、学校ボランティア並びに地域の方々のおかげと深く感謝いたします。

さて、私は夏休みが近づくと必ず思い出すことがあります。小学生のころ、カブト虫採りに夢中だったことです。近所のお兄さんたちに連れられ、朝早く家を出て、近くの山に向かいます。お寺の脇の細道に入り、茂みを分け行くとクヌギやコナラ林があらわれます。樹液の出ていそうな木を見つけたら思い切り蹴飛ばしてみます。運がよいと数匹のクワガタやカブト虫が落ちてきます。ときどき、ミヤマクワガタを見つけることもあり、その頑強そうな形や色にとっても興奮したことを覚えています。朝日が昇ると、虫採りは終わりです。近くの小川に足を入れながら母親が作ったおむすびを食べ、その日の成果を見せ合います。形の大小、色、力強さなど一匹一匹皆違い、それなりに自慢の一匹となるのです。しかし、よいことばかりではありません。アブに嘔まれたりハチに追いかけられたりカナブンにおしっこを引っかけられたり……。へビ嫌いの私は、地を這うその姿を見つけるや一目散に走り出し周囲を驚かせるのでした。

今年は、事務室入り口にカブト虫の蛹を飼っていました。カブト虫は蛹になる前に、蛹室をつくります。蛹室とは、蛹が成虫になるまでの間育つための部屋のことです。先日、その蛹が無事羽化し、真っ白い羽根を見ることができました。偶然通りかかった子どもたちがその様子を見て、歓声を上げていました。

この1学期間に子どもたちから感心させられたことはたくさんあるのですが、とりわけ飼育委員の子どもたちの活動には、頭が下がりました。毎日、短い時間の中で水替えや餌やり、掃除をしたり、こまめに生き物の様子を観察したり……。中には、傷ついた赤ちゃんウサギを家に持ち帰り世話をしてくれる子もいました。私も何羽か持ち帰り育てているのですが、赤ちゃんウサギの世話をするのは簡単なことではないことを身をもって知りました。

子どもたちが育てている草花も、少しでも水やりを怠るとすぐぐったりしてしまいます。

生き物を探したり育てたりすることは、子どもたちは大好きです。夢中で何かをすることは、成長期の子どもたちにとって宝です。しかし、世話をすることは簡単なことではありません。生き物の生態や様子にあわせて世話をしなければならないからです。命を守るための大切な務めを果たすためには、自分の都合を優先するわけにはいきません。生き物の立場や気持ちを感じ取ろうとすることで、思いやりの心や豊かな感性が育つように思うのです。

さて、21日から42日間の夏休みが始まります。我慢できない子どもたちは、皆それぞれの計画を夢中になって聞かせてくれています。この長い休みが子どもたちやご家族の皆様にとって有意義で思い出深いものとなりますよう、職員一同お祈り申し上げます。



(羽化したかぶと虫)